

運動としての世界社会フォーラム：「差異を尊重して大義につく」

1. 世界社会フォーラム（WSF）の歩み 毎年1月末開催

- ・世界経済フォーラム（WEF、ダボス会議、1971—）への対抗フォーラムとして出発
- ・前史 1999/11 シアトル反WTO、反IMF・WB・G7、トービン税、反グローバリゼーション運動
- ・第一回 2001/1 ポルトガル、1万6千参加、原則憲章、参加型予算、農民、ATTAC、インド・デイトン・デモ
- ・第二回 2002/1 ポルトガル、6万、もうひとつの世界は可能だ、9・11、欧州地域フォーラム
- ・第三回 2003/1 ポルトガル、10万、2/15 反戦統一行動 1500万、各地域フォーラム・議員フォーラム
- ・第四回 2004/1 ムンバイ、12万、財団援助受けず自助運動、インターネットで2千のワークショップ組織
- ・第五回 2005/1 再びポルトガル、定点観測・参与観察可能、ただしプロセスの情報ネットワークが重要

加藤「反ダボス会議のグローバリズム」(<http://member.nifty.ne.jp/katote/ecoforum.html>)

加藤「インドで世界社会フォーラムを考える」(<http://member.nifty.ne.jp/katote/03india.html>)

北沢洋子「世界は地の底から揺れている」『世界』04/03

(http://www.jca.apc.org/~kitazawa/thesis/seattle_to_mumbai_2004.html)

フィッシャー＝ポニア編『もうひとつの世界は可能だ』序論・第21章

(日本経済評論社、2003、<http://www.ff.ij4u.or.jp/~katote/another.html>)

2. 社会運動としての世界社会フォーラムの特徴とネットワーク型組織

- ・「世界社会フォーラム憲章」14カ条(<http://www.kcn.ne.jp/~gauss/jsf/charter.html>)

「世界社会フォーラムは公開された討議の場です。わたしたちは考えを深め、アイデアを民主的に話し合い、提案をまとめます。経験を自由に交換し、効果的な行動を追求します。ここに参加するのは市民の団体や運動組織です。わたしたちは新自由主義を批判し、資本主義や帝国主義が世界を支配するのに反対します。人間同士が実り多い関係を築き、人間と地球が豊かにつながる地球社会を作り上げるために行動します。」
 「もう一つの世界が可能だという確かな合言葉にもとづいて、もう一つの可能性を追求し実現する永続的な運動」「巨大多国籍企業とその利益に奉仕する諸国家・国際機関が推進しているグローバリゼーションに反対し、その代替案」「世界の国々で活動する市民の団体や運動組織だけが集まりたがいに連帯するものです。しかし世界の市民社会を代表するものではありません」「ひとりの人がいずれかのフォーラムの代表者として権威を持つことはなく、参加者全体の意思を代表することはありませんし、投票であれ拍手であれ参加者が団体として何かを決定することもありません」「世界社会フォーラムはさまざまな価値や考え方を認め、信条の違いを超え、政府機関や政党とは関係を持ちません。もう一つの世界を打ち立てるために、中央集権にならない方法で団体や運動組織がたがいに連携し、地域レベルから国際レベルまで具体的に活動をすすめます」「多元主義（ブルーリズム）を尊重する開かれたフォーラム、政府指導者や議員が憲章の原則を守ることを誓うなら個人の資格でフォーラムへ招待されることもあります」「経済や発展・歴史を一つの視点から解釈したり何かの原則に還元したりすることにすべて反対」「経験を交換する枠組み」「連帯を生み出すための仕組み、非暴力の抵抗」「地球市民への一つの過程」

- ・「対抗フォーラム(広場)・アリーナ(競技場)」
 「多様な運動体による一つの運動 a movement of movements」
 「多様なネットワークによる一つのネットワーク」
 「差異の解放・尊重と増殖」
 「国境を越えた想像の共同体」
 「審議体なき教育的・政治的空間」
 「新自由主義グローバル化への抗議と抵抗」

・ 5つの論点（フィッシャー＝ポニア序論）

- （1） 革命か改良か、コミットメントかエクソダスか、IMF等への参加か脱正統化か
 - （2） 環境か経済か、成長・雇用創出かエコロジーか。労働者か市民か
 - （3） 人権か保護主義か、投資協定の人権条項の可否、北か南か
 - （4） 価値の普遍性か文化相対主義か、西欧的価値と差異の一枚岩的思考
 - （5） ローカルか、ナショナルか、グローバルか、補完性原理・自給自足
- ・ 共通の敵（新自由主義グローバル化）と社会主義・アイデンティティ集団・エコロジストの3潮流
 - ・ ラディカルで参加的な「生命系民主主義」「対等の連鎖」「差異の普遍主義」「連帯経済」
 - ・ 実際の運営：組織委員会・国際評議会、全体会議・テーマセッション・ワークショップ・パフォーマンス

3. インターナショナルの歴史から 第一・第二・第三、そしてまた第一？

- ・ 第一インター（1864 国際労働者協会）政治組織・組合・個人、欧州男性、万国博覧会・パサージュ
- ・ 第二インター（1889—社会民主主義）政党・組合の連絡交流、大会決議、欧州大同団結と裏切り
- ・ 第三インター（1919—共産主義）ソ連共産党型拡張、民主集中制・一枚岩鉄の規律、民族解放地球化
＜非同盟運動、新しい社会運動 シングル・イシュー、女性、核、環境、人権・市民権＞
- ・ 世界社会フォーラム（2001—）NGO/NPO・市民運動、組合・女性・マイリティ・政治家も加わるアリーナ？

J.Sen et al.eds., *Challenging Empires* (http://www.choike.org/nuevo_eng/informes/1557.html)

The Forum as a Jazz/ Towards a New International?(M. Löwy) / Towards Another Anarchism(A.Grubic) / The WSF as Open Space/ The WSF: Arena or Actor?/ WSF's "Many Alternatives" to Globalisation/ The Twilight of Vanguardism/ The WSF: Toward a Counter-Hegemonic Globalisation etc.

曾良中清司他『社会運動としての公共空間』（成文堂）6章 「主体—資源—機会—矛盾」への新しい社会運動論（主体と矛盾）+資源動員論（資源と機会）のトランスナショナルな接近のネットワーク社会論

4. 平和運動の流れから 機動戦・陣地戦から情報戦へ（ネオ・グラムシアン？）

- ・ 19世紀機動戦・市街戦 武器・軍事力 決戦・制圧/前衛・武装蜂起・ハリケーン（反戦、兵役拒否）
- ・ 20世紀陣地戦・国民戦 経済力・組織力 法・議会・選挙/政党・労組・ストライク（反帝・反核、非戦）
- ・ 21世紀情報戦・地球戦 正統性・言説力 メディア・危機管理/世論・市民ネットワーク（反グロー、反差別）
- ・ 「もうひとつの政治＝仮想敵を持たない非暴力・寛容・自己統治の政治」（もうひとつの世界）

加藤『20世紀を超えて』花伝社、2001(<http://member.nifty.ne.jp/katote/culture.html>)

加藤「情報戦時代の世界平和運動」『世界』03/06 増 (<http://member.nifty.ne.jp/katote/sekai0306.html>)

加藤「大義の摩滅した戦争、平和の道徳的攻勢」『世界』04/07

5. 「小異を捨てて大同につく」ではなく「差異を尊重して大義につく」？

- ・ 「差異の政治・アイデンティティの政治」「差異の解放・増殖」を前提にしたアーチ型「対等の連鎖」は可能か
- ・ 情報共有「多様なネットワークによる一つのネットワーク」a network of networks
- ・ 目標共有「共通の敵＝新自由主義的グローバル化＝帝国」The Empire, US Empire or Empires?
- ・ 行動共有「多様な運動体による一つの運動」a movement of movements
- ・ 価値共有「自由、平等 公正、友愛 連帯、民主主義、平和 非暴力、人権」vs「記憶・伝統・ネーション」
- ・ 「グローバル市民社会・グローバル・ガバナンス・グローバル公共圏」とインターネットの役割
(特にフィッシャー＝ポニア第18・27・28章)